

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぷっぷ			
○保護者評価実施期間	令和8年3月			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和8年4月			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年4月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団支援にこだわらない支援方針	工夫点 集団生活や集団活動に介入できない児童には、個別のアプローチを行ったり、本人が興味をもってくれるように集団活動に「その子らしさ」を加えて「したい」「やりたい」が芽生えるように日々活動内容や支援を組んでいる 意識的に行っていること 基本的に「したい」「やりたい」が本人の中で芽生えないと集団活動や集団に入ることが難しいと考える。その為、各児童が「やりたい」「したい」と思うような個別のアプローチから介入することを意識している	充実を図るための取り組み ・人員の強化（障害の理解や増員） ・今よりもさらに練り詰めた活動計画の作成と実行
2	児童の「楽しい」を生みやすい環境	工夫点 児童と職員の距離が近く、お兄ちゃんやおねいちゃん感覚で関わられる。（昔、近所のお兄ちゃんやおねいちゃんと遊んだ時のような感覚） 個人の能力や得意などを見ながら支援を行う為、無理なく通所することができる。 意識的に行っていること どのような子でも、距離を開けることなくその子なりのかかわり方で信頼関係を作り上げていく 各児童の得意は「楽しい」につながりやすいので「得意」を十分に発揮できる環境を作っている	充実を図るための取り組み ・興味・趣味・得意の拡大を狙って支援をする ・日々、児童の成長を見逃さずに「今」を追い続ける

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフに十分な余裕がない為1人でも欠員が出ると外活動が出来なくなってしまい楽しみにしていた児童にはショックを与えてしまう	要因 支援の難しさや理解してもらえない時に、モチベーションへのギャップが生まれる。	改善 ・余裕の持った支援提供 ・障がいや成長の理解を強化し、支援技術の引き出しを強化する（困ることなくなんでも対応できるようになる）
2	情報発信力が少ない	要因 SNSへの発信をあまりしていない。児童の支援中に写真を撮ってアップロードする暇や時間がない。	改善 ・ホームページの活用 ・簡易に保護者に情報お届けれるシステムの運用 ・毎月発行している書類に通信欄を設け日々の取り組みを保護者に見えるか化する

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名

ぷっぴ

公表日

令和8年4月24日

利用児童数（実施）：20

13

回収（9～20 回答抜けあり）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1		1		今後の状況に応じて、一部部屋の開放を検討します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1		3		人材確保に努めます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12			1		各児童に合わせて施設のレイアウトや環境の整備に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12			1		毎日、決まった掃除方法での清掃で清潔確保に努めています。
適切な 支援の 提	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	12	1				根拠に基づいた見立てと意見によって支援の組み立てを行っています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11			2	見ていないとのご意見がありました。	定期的にホームページ情報をお伝えしていきます。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13					

児 供	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	1		3		児童館や地域の公園に出向き地域の交流を行っています。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12					
	14	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	12					
	15	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12				アプリを使った様子の共有や児童のかわいい写真をもっと共有してほしいとの意見がありました。	現在、アプリを使っでの写真や様子の共有を実験中です。安全性やアプリ使用に関しての不安点などが改善でき次第運用する見通しです。
	16	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12					
	17	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11			1		できるだけ各児童の環境を変えずに保護者にとって柔軟な対応ができるように努めています。
	18	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12					
19	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9			3		現在はぶつぶつ便りのみの情報発信を行っています。現在アプリでの情報共有を検討しています。	

	20	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12				
非常時等の対応	21	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	1		4	ホームページに随時マニュアルの記載を行ってまいります。
	22	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			5	ぶっぶりなどに通信欄などを設置しスタッフの動きや保護者には見えない取り組み内容を発信し見えるかしてまいります。
	23	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12			1	BCPや安全計画などに基づいて活動の縮小化や中止などを検討して安全性を確認しながら運営を行っています。
	24	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12			1	問題が発生したときは事故報告書を使い報告を行っています。大津市に報告義務がある事に関してはすぐに対応しています。
満足度	25	こどもは安心感をもって通所していますか。	12	1			児童に安心感や楽しいを感じてもらえるように日々改善に努めながら支援を行ってまいります。
	26	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	1			どの児童にも楽しいと感じてもらえるように精進してまいります。
	27	事業所の支援に満足していますか。	13				

ご協力ありがとうございました。

事業所名	ぶっぶ		公表日		8年 4月 24日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童によっては「自分の場所」を決めてクールダウンや興味ある物事を行えるように分けている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童のパニックの原因や不安点などをつぶして個人の支援を取り入れている。そのため不必要な手間を省けている	スタッフが十分にいるわけではないため、1人休みが出ると活動が中止になってしまう。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		必要な児童には視覚化構造化の支援を取り入れている	掲示しているものは簡単に外されてしまう
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日決まった掃除手順書を使い清潔を保っている。	壁に穴が開いたり、壁紙がない場所がある。見栄え的には心配になる人もいる
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		大きな部屋と、静養室、静養室にはスヌーズレンルームや個室が1つずつ存在する。	それでも足りない時がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		3か月に1回（年4回）の定期社内会議を行い各スタッフと業務についての会議を行っている。また、サービス評価委員会も年3回開催し、サービスの室に関しての話し合いを行い改善に努めている	スタッフの取り組みが保護者や第三者に見えるかできていない
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			回収率があまり高くない
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回保護者や職員にアンケートを実施し当施設に必要な改善店などを確認している	アンケート理解が人によってばらつく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		職員脂質向上に向けての計画に基づき、スタッフが資格を獲得するまでのプロセスや障害に対する理解などを深めている	障害に対する理解は人によってばらつきがあり、支援の質に差が出てくる時がある
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		年1回見直しを行い、ホームページに公表している	ホームページへの誘導ができていない
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		児童発達支援管理責任者（山本 道樹）が保護者から面談モニタリングやモニタリングシートを活用しアセスメントを行っている児童に関しては毎日行っている1時間の申し送り時間に児童の様子を日々確認している	保護者への説明が簡易になりがちで深く説明する機会が少ない
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者が計画した「個別支援計画案」に基づいて毎月該当児童の個別支援会議を開催している	長期休暇時は内容の濃い会議ができないことが多い
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		毎日の申し送りでも個別支援に関する申し送り時間をおも受けている	長期休暇などは時間が取れない時がある
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ぶっぶには「行動アセスメント表」「行動アセスメント結果表」「保護者アセスメント表」「フェイスシート」「ニーズ整理表」などの決まった様式が存在する	日々改善中

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画書にはすべての項目を入れている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動は、活動を案から組み立てるチームが存在する	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎日活動は変化している	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		集団活動の中にもどの児童がどこまでを作業するのかなど各児童によって具体的な内容を決めて活動計画に記載し実施している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日申し送り時間や朝礼で活動内容の確認や支援時の注意点などを確認している	お迎えの都合で、最後まで申し送りできない職員が存在する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		翌日の申し送りで確認している。また申し送りの記録は1週間室内に掲示されている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		申し送りの記録は毎日とっている	長期休暇時期は、記録漏れすることが多い
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		基本6か月に1回モニタリングを行っている	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「自立と日常生活の充実のための活動」 「創作活動・生産活動」 「地域交流の機会の提供」 「余暇の提供」 すべて、生活の中に取り入れている	交流に関しては難しい児童もいるが、放デイに向向いている時点で交流につながっていると思っている。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		各児童、自分の思いの主張は開放的だと思っている。「いきたい」「やりたい」などの思いは受け止めて実行している。必要であれば1対1で提供したり、意見の合うニーズの合うお友達で実行したりしている	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		ケース会議などには基本児童発達支援管理責任者が出席している	日によっては会議に参加できないことがある
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		日々学校とは情報の共有を行っている 連携医療機関に関しても提携先が存在する	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは予定表の予定表の共有を行うことができる。保護者からの情報共有で学校予定を知ることができている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			見学以外こども園などの連携をとったことがない
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要であれば提供している	卒業する際に共有する機会がない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		設けていない	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の公園や児童館へ向向いて活動している	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		管理者が出席している 今年は放課後支援部会のサポートメンバーを努める	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		引継ぎの際に、保護者からの連絡事項は翌日の申し送りで共有している		
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		困り感があれば聞いている		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に実際の書類や様式を用いて説明している	永続的な説明ではないので保護者が振り返れる取り組みが必要だと感じている
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子供の意見や子供の利益を優先に考えてサービスを提供している。また保護者についても使いやすい放デイを目指している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画書を更新した際は必ずサインをもらっている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		相談があれば必要な助言を行っている	完全回答できない時もある
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	保護者モニタリングで必要性を感じていなかったため実施はない	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付の窓口は管理者以外に第三者や市の窓口を設置している	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ぶっぶり便りを毎月作成し配布している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きロッカーにて保管	物品の入れ間違いなどがあるので改善する必要がある
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		なんでも言いやすい、相談しやすい場所を心がけている	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	散歩中に地域の挨拶を心がけている		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		施設にはいつでも見れるように設置している	保護者への周知は行き届いていないため、ホームページへの掲載を随時行っていく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		児童福祉法に基づく必要な訓練と研修などを行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		定期アセスメントで児童の状況を把握している、またアセスメント後は各児童のアセスメントシートをすぐに更新し周知している	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		必要に応じて対処している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は毎年更新してホームページに記載している	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			ホームページへの誘導ができていない
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットや事故報告は朝礼時に確認し作成している	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		児童福祉法に基づいて虐待および身体拘束に関する委員会を設置している。必要な研修や会議も開催している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		個別支援計画書には必ず身体拘束に関する項目を記載し確認してもらっている		